

現代福祉学部

【2025年度 大学評価総評】

学部の性質上実習やフィールドワークが多く、それについて工夫を凝らして新たな取り組みもふんだんに取り入れて進めており、S評価が多いのもうなずける。学生の声を取り入れる取り組みも、編入生や付属高出身者へのインタビュー、学生モニター制度など、毎年度新たな試みを発想して着実に実施している。また、ウェルビーイング研究会を年3回、FD・SD研修を各1回開催し、教員の教育能力および資質向上、授業方法の開発や改善などを図っている点も高く評価できる。

ただ、学部の、福祉・地域・心理の総合という理念が素晴らしいだけに、「3領域の横断的な教育の必要性や需要はあるものの、今年度は教育の在り方を検討する機会を持つことができなかった。」というのは残念である。3領域の横断的教育は、学部の重要な課題の一つであるため、今後さらなる検討が期待される。

【2025年度 自己点検・評価結果】

I. 改善・向上の取り組み

(1) 2024年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2024年度大学評価結果総評】(参考)

現代福祉学部は、中期目標において特に学部の教育理念の周知を深めるべく在学生向けとともに外部への発信に力を入れておりその継続した取り組みは大いに評価でき今後も期待したい。昨年度の達成状況報告書全般については各評価項目・基準に関する達成指標への取り組みでは9項目中3項目で「S」評価とされ全体的な質的保証を担保できた点は大いに評価できる。特に、評価の高い「教育課程・学習成果」では、学部での福祉系、地域系、心理系の3領域を生かした総合的かつ専門的な学びを実現すべく、2年目の新カリキュラムの先年よりさらに踏み込んだ目標設定に意欲的に取り組む姿勢がうかがえ特筆に値する。ここでは、学部の優れた魅力でもある各実習科目にも関連し国内における関連諸機関との連携のみならず国際的な活動も視野に入れたカリキュラムの検討等とそれに付随した下位の達成必要項目も明記され今年度以降の有言実行に大いに期待したい。学習成果を把握するための方法として1年生の基礎演習における基礎ゼミコンペにおいて、最終審査員として外部委員を招く等の取り組みも評価できる。また、「学生の受け入れ」も特に評価が高く、学部の教育理念に基づく多様な入生の在り方を構築すべく、在学生の入試経路別の学習成果把握の検討、指定校の見直しとともに関連情報発信についてさらに取り組みを充実させている姿勢は特筆に値する。総じて、本学部が真摯に掲げる幅広い福祉の視野をもって社会に貢献できる福祉マインドを身につけた人材養成を念頭とした教育目標の実現に今後とも大いに期待したい。

【2024年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

学部に関する情報発信への取り組み、学生モニター制度によって得られた課題の解消に向けた実習カリキュラムの検討などについて評価いただいた。2024年度は、在学生が入学にあたってどのように学部情報を得てきているのか、入学後に何を求めているかの把握の試みとして、転編入生へのインタビューと付属在校生へのインタビューを学部独自で実施した。そこで得られた結果は、教授会に報告し、今後の学部情報発信の方法や編入生が抱える課題について教員間で共有することができた。

実習に関しては、精神保健福祉士の養成課程について、4年次のみ履修可能だったものを学生からの要望に応える形で、3年次から履修可能とすることを決定した。今後はカリキュラム配当年次や実習機関の確保といった課題を解消していく予定である。その他、国際実習の実現に向けて、アジア圏の大学（フィリピン）を提携大学とすることを教授会にて承認した。

本学部の教育理念の実現を目指し、福祉系、地域系、心理系の3領域を融合した学問体系をより一層充実できるよう取り組んでまいりたい。

(2) 改善・向上の取り組み(教育課程およびその内容、教育方法)

アセスメント・ポリシーに基づき、ディプロマ・ポリシーに示した学習成果を把握しましたか。結果を学部として	S. 学習成果が達成できていることが確認できた A. 学習成果が概ね達成できていることが確認できた B-1. 学習成果が達成できていないものがあったこと	A (学習成果が概ね達成できていることが確認できた)
---	--	----------------------------

<p>どのように評価しましたか。</p> <p>＜対応する大学基準：学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価していること。＞</p>	<p>を確認できた</p> <p>B-2. 学習成果の達成度を確認するには、測定方法が不十分であることが確認できた</p> <p>B-3. ディプロマ・ポリシーの見直しの必要性を確認できた</p>			
<p>上記の選択をしたのはなぜですか。実施主体、測定対象や測定方法を踏まえて理由を具体的に記入してください。</p>				
<p>《理由》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語に関して、入学時と1年終了時にTOEICテストを実施することにより、学習効果が可視化され、担当教員の効果的な授業運営に活かすことが可能となっている。また、1年次及び次年度の習熟度別科目のクラス編成にも役立っている。加えて、TOEIC成績上位20名を対象に「Intensive English」を開講し、さらなる英語力の向上に向けた指導を行い、年度末には担当者より報告書が出され、学習成果を教授会にて確認している。 ・実習に関しては、「ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱ」「精神保健ソーシャルワーク実習」「スクールソーシャルワーク実習」にて報告書の作成、外部指導者を招いて実習内容の検証を行っている。「臨床心理実習」においても実習報告書を作成している。「コミュニティマネジメント・インターンシップⅠ・Ⅱ」「コミュニティマネジメント・リサーチ」は、年度末に全体報告会を実施し、さらに「コミュニティマネジメント・インターンシップⅠ・Ⅱ」は調査・実習報告書も取りまとめており、一連の指導を通じて習熟度を把握している。 ・福祉コミュニティ学科では、社会福祉士及び精神保健福祉士の国家試験対策講座を開設し、受講者の国家試験合格人数の把握によって学習成果を測定している。 ・4年間の学習成果である卒業論文のテーマ一覧表を学部内で作成し、教員間で共有がなされている。 ・学修成果可視化システム Halo を用いて、成績上位者の GPA 分布を確認し、授業やカリキュラム構成における課題を執行部・教務委員会で共有している。 ・大学評価室による学生調査結果および学生モニター制度を活用し、教育方法における課題を抽出し、教授会での報告・把握を行い、早急に改善できる点については着手している。 				
<p>教育課程およびその内容、教育方法について、学部として過去4年間（2021年度～2024年度）の中で特に改善・向上に向けて取り組んだ事例について、①～⑩の項目から《改善した項目》を選択し（レ点チェック）、その詳細について《改善内容》《改善した結果良かった点・課題》を記入してください。</p> <p>＜対応する大学基準：教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。＞</p>				
<p>事例</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 25%; vertical-align: top;"> <p>《改善した項目》 (複数選択可)</p> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> ①開講時期、開講頻度、授業時間等 <input type="checkbox"/> ②授業科目の内容（目標、内容、開設授業科目数、授業科目の統廃合） <input type="checkbox"/> ③授業科目の関係（各科目間の関係、ナンバリング、カリキュラムマップ、カリキュラムツリー、履修系統図等） <input type="checkbox"/> ④教育方法（授業の形態、授業方法等） <input type="checkbox"/> ⑤評価基準、評価方法 <input type="checkbox"/> ⑥学生の履修（履修科目の登録上限、履修順序、必修科目と選択科目の設定、配当年次等） <input type="checkbox"/> ⑦地域社会・国際社会・産業界等の社会との接続、大学院教育との接続 <input type="checkbox"/> ⑧学習支援（単位の実質化のための取り組み、各種相談・サポート、学生の主体的な学習を促す取り組み） <input checked="" type="checkbox"/> ⑨留学、インターンシップ、フィールドワーク等プログラムの充実 <input type="checkbox"/> ⑩その他 </td> </tr> </table>			<p>《改善した項目》 (複数選択可)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> ①開講時期、開講頻度、授業時間等 <input type="checkbox"/> ②授業科目の内容（目標、内容、開設授業科目数、授業科目の統廃合） <input type="checkbox"/> ③授業科目の関係（各科目間の関係、ナンバリング、カリキュラムマップ、カリキュラムツリー、履修系統図等） <input type="checkbox"/> ④教育方法（授業の形態、授業方法等） <input type="checkbox"/> ⑤評価基準、評価方法 <input type="checkbox"/> ⑥学生の履修（履修科目の登録上限、履修順序、必修科目と選択科目の設定、配当年次等） <input type="checkbox"/> ⑦地域社会・国際社会・産業界等の社会との接続、大学院教育との接続 <input type="checkbox"/> ⑧学習支援（単位の実質化のための取り組み、各種相談・サポート、学生の主体的な学習を促す取り組み） <input checked="" type="checkbox"/> ⑨留学、インターンシップ、フィールドワーク等プログラムの充実 <input type="checkbox"/> ⑩その他
<p>《改善した項目》 (複数選択可)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> ①開講時期、開講頻度、授業時間等 <input type="checkbox"/> ②授業科目の内容（目標、内容、開設授業科目数、授業科目の統廃合） <input type="checkbox"/> ③授業科目の関係（各科目間の関係、ナンバリング、カリキュラムマップ、カリキュラムツリー、履修系統図等） <input type="checkbox"/> ④教育方法（授業の形態、授業方法等） <input type="checkbox"/> ⑤評価基準、評価方法 <input type="checkbox"/> ⑥学生の履修（履修科目の登録上限、履修順序、必修科目と選択科目の設定、配当年次等） <input type="checkbox"/> ⑦地域社会・国際社会・産業界等の社会との接続、大学院教育との接続 <input type="checkbox"/> ⑧学習支援（単位の実質化のための取り組み、各種相談・サポート、学生の主体的な学習を促す取り組み） <input checked="" type="checkbox"/> ⑨留学、インターンシップ、フィールドワーク等プログラムの充実 <input type="checkbox"/> ⑩その他 			
<p>《改善内容》</p> <p>※理由を含めて記入してください。</p> <p>現代福祉学部では、海外研修および国内研修を実施している。海外研修はコロナ禍を経て2023年度より再開し30名定員で実施してきたが、人数の多さ、費用負担の増加が課題となっていた。2024年度には参加者人数を20名、渡航費用の上限を30万円とすることを教授会にて決定し、プログラムの充実をはかった。また、国内研修は応募者が年々減少傾向であったため、年に2回しか申請できなかったものを、年に6回申請する方法へと変更した。</p>				
<p>《改善した結果良かった点・課題》</p> <p>海外研修はスウェーデンのみとなっていたが、費用負担の軽減を目指し、アジア圏での実習・研修</p>				

を加えた選択肢を増やす取り組みの検討を開始し、すでに提携大学を教授会にて承認するなど次年度以降の実施に向けて準備を行っている。また、国内研修は、教授会やゼミで告知する回数を増やした結果、国内研修への周知度が上がり、応募者の増加につながった。

(3) 改善・向上の取り組み（教員・教員組織）

教員・教員組織について、学部として特に「特色」として挙げられるもの、もしくは「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものを《項目》の中から選択し、《内容》を記入してください。

・教員組織に対する取り組み※

※主に、教員が担う責任の内容、科目適合性の学内での判断、各教員の担当授業科目、担当授業時間の把握・管理（複数の所属、他大学・企業等との兼務教員について業務状況や教育効果含む）について

・教員の教育能力の向上、教育課程や授業方法の開発及び改善につながる組織的な取り組みとその成果

・授業における指導補助者（TA等）の活用に対する取り組み

《対応する大学基準：教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を安定的にかつ十全に展開できる教員組織を編制し、学習成果の達成につながる教育の実現や大学として目指す研究上の成果につなげていること。》

《対応する大学基準：教育研究活動等の改善・向上、活性化につながる取り組みを組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上につなげていること。》

《対応する大学基準：教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。》

《特色または課題》

特色

《項目》

教員の教育能力の向上、教育課程や授業方法の開発及び改善につながる組織的な取り組みとその成果

《内容》

ウェルビーイング研究会を年3回、FD・SD研修を各1回開催し、教員の教育能力および資質向上、授業方法の開発や改善などを図っている。

【ウェルビーイング研究会】

第1回 日時：2024年7月6日（土） 第一部 15:30～16:30 第二部 17:00～19:00

会場：（第一部）市ヶ谷キャンパス外濠校舎4階S407教室

（第二部）アルカディア市ヶ谷6階伊吹（東西）

発表者：杉浦ちなみ先生

テーマ：「1970年代以降の自治体教育改革における地域文化の組織化過程—鹿児島県奄美群島に注目して—」

参加人数：出席者数 第一部 28名 第二部 29名

第2回 日時：2024年12月4日（水） 15:30～16:20

会場：現代福祉学部棟3階第1・2会議室

発表者：小野純平先生

テーマ：検査結果の受検者へのフィードバック

参加者人数：教員24名参加（対面23名、オンライン1名）

第3回 日時：2025年1月29日（水） 15:30～16:10

会場：現代福祉学部棟3階第1・2会議室

発表者：山本五郎先生

テーマ：時事英語コーパスの構築と語彙リスト分析

参加者人数：教員27名参加（対面25名、オンライン2名）

【FD研修】

日時：2024年11月6日（水） 15:00～16:30

会場：現代福祉学部棟3階第1・2会議室

テーマ：：障がいのある学生への合理的配慮について

参加者人数：23名参加（対面22名、オンライン1名）

【SD研修】

日時：2025年3月5日（水） 14:30～15:00

会場：現代福祉学部棟3階第1・2会議室

テーマ：大学設置基準単位制度について

参加者人数：教員17名、職員2名参加（対面18名、オンライン1名）

II. 全学的な自己点検・評価結果より見出された重点的な評価項目

(1) 自由を生き抜く実践知を体現する取り組み

<p>学部における「実践知」を体現する取り組みについて、改善・向上を図っていますか。</p> <p>＜対応する大学基準：教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。＞</p> <p>＜対応する大学基準：社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。＞</p>	<p>S. さらに改善した又は新たに取り組んだ</p> <p>A. 概ね従来通りである又は特に問題ない</p> <p>B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。</p>	<p>A (概ね従来通りである又は特に問題ない)</p>
<p>上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。</p> <p>Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。</p> <p>Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。</p>		
<p>＜内容＞</p>		

(2) オンライン教育の取り組み

<p>オンライン授業は「2024 年度以降の授業編成における留意点について (報告)」(2023 年度第 6 回学部長会議資料 No. 7) に沿って、適した授業科目に用いられ、その有効性や教育効果を確認し、改善・向上を図っていますか。</p> <p>＜対応する大学基準：教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。＞</p>	<p>S. さらに改善した又は新たに取り組んだ</p> <p>A. 概ね従来通りである又は特に問題ない</p> <p>B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。</p>	<p>A (概ね従来通りである又は特に問題ない)</p>
<p>上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。</p> <p>Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。</p> <p>Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。</p>		
<p>＜内容＞</p>		

(3) 学生の声を活かした取り組み

<p>学部レベルにおいて、学生の声を活かした改善・向上を図っていますか。</p> <p>＜対応する大学基準：教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。＞</p>	<p>S. さらに改善した又は新たに取り組んだ</p> <p>A. 概ね従来通りである又は特に問題ない</p> <p>B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。</p>	<p>S (さらに改善した又は新たに取り組んだ)</p>
<p>上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。</p> <p>Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。</p> <p>Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。</p>		
<p>＜内容＞</p> <p>学生モニター制度の結果を教授会に報告し、共有を図った。その際、新規給水機設置場所の変更希望が出され、早急に改善を図り、設置場所の変更、案内掲示を貼りだすなどの対策を行った。また、初めての試みとして、転・編入生インタビューおよび付属校生インタビューを実施し、その結果を教授会に報告・共有化を図った。転・編入生インタビューでは、ガイダンス期間の対応についての改善希望が出され、2025 年度ガイダンス期間の対応を改善した。付属校生インタビューでは、学部の特色科目、抽選科目の課題などが出され、教務委員会で改善点などを検討した。</p>		
<p>授業レベルにおいて、学生の声を活かした改善・向上を図っていますか。</p> <p>＜対応する大学基準：教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。＞</p>	<p>S. さらに改善した又は新たに取り組んだ</p> <p>A. 概ね従来通りである又は特に問題ない</p> <p>B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。</p>	<p>A (概ね従来通りである又は特に問題ない)</p>
<p>上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。</p> <p>Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。</p> <p>Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。</p>		
<p>＜内容＞</p>		

III. 2024 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

<p>評価基準</p>	<p>理念・目的</p>
-------------	--------------

中期目標	現代福祉学部および福祉コミュニティ学科・臨床心理学科の教育理念について、外部に発信するとともに学部内の学生に対しての周知を深める。	
年度目標	①教育理念のウェルビーイングの理念について、教員間で再確認したうえで、外部への発信方法について、検討を行う。 ②特に卒業生組織である同窓会との協議、在校生との協議を行い、新たな発信方法について戦略を練る。	
達成指標	①25周年事業等の発信を同窓会と相談しつつ進める。 ②オープンキャンパスに関わる学生たちから、受験生の動向を把握する。 ③在校生から見た現代福祉学部の認識・印象について把握していく。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	①25周年事業について、同窓会定例会に執行部が出席し、種々の協議を開始している。 ②オープンキャンパス実施日の受験生相談やオープンキャンパススタッフからの情報を得た（まちづくりチャレンジ入試に関する問い合わせの増加など）。 ③学生モニター制度のみならず、今年度は「編入生インタビュー」「付属校出身生インタビュー」を新たに実施し、現代福祉学部を選択した理由や入学後の印象などを聞き取り、教授会に報告した。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	オープンキャンパススタッフからの情報収集に留まらず、新たに編入生や付属校出身生へのインタビューを実施して、学部内外の本学部に対する認識を確認している点は高く評価できる。さらに、25周年事業に関して同窓会と準備を進めることにより、教育理念の外部への発信に尽力されている点は大いに期待したい。
	改善のための提言	—
評価基準	内部質保証	
中期目標	継続的な内部質保証を実現するためのPDCAサイクルを充実させる。	
年度目標	①質保証委員会と学部執行部との着実なPDCAサイクルを実施していく。 ②SD,FD改善に向けて、教授会研修や研究会などを実施する。	
達成指標	①質保証委員会の年3回の開催により、PDCAサイクルの運用を確認していく。 ②ウェルビーイング研究会を年2回以上開催する ③教授会において、FD研修、SD研修をそれぞれ実施する。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	質保証委員会（3回）、ウェルビーイング研究会（3回）、FD研修、SD研修を実施し、課題共有などをはかった。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	質保証委員会を年度当初、中期、年度末に3回開催し、ウェルビーイング研究会（3回）、FD研修、SD研修も予定どおり実施しており、内部質保証に対する意欲が示されている。
改善のための提言	—	
評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
中期目標	2021年度から実施された新しいカリキュラムにおける教育課程と教育内容についてモニタリングすることにより、その改善策について検討を進める。	

年度目標	①専門演習 I A, I B の選考時期を変更したため、学生や教員へのモニタリングを実施する。 ②社会福祉士・精神保健福祉士養成課程において、新カリキュラムが開始されて、2年目となっているため、その動向を把握する。	
達成指標	①専門演習 I A, I B の選考方法や時期について、教員へのアンケート調査の実施、学生へのヒアリング等を行い、教務委員会で検証する。 ②社会福祉実習および精神保健福祉実習を受け入れている外部組織の方々と懇談し、新カリキュラムの運営方法について協議する。 ③社会福祉士及び精神保健福祉士の実習体制を検討する。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	①専門演習 I A・B に関して、昨年度から新たな運用方法で実施したため、その運用に関して教員にアンケート調査を実施した。結果をもとに、教務委員会で改善策を検討し、転ゼミの手法を変更した。 ②③社会福祉士実習、精神保健福祉士実習の外部組織の方々と協議し、新カリキュラムの運用課題について協議した。また、4年次のみ履修となっていた精神保健福祉士のカリキュラムを3年次から履修可能となるよう検討し、2026年度から実施できるよう準備を進めている。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	専門演習 I A・B の転ゼミ手法の変更を試みたこと、社会福祉士実習、精神保健福祉士実習の新カリキュラムの運用課題について協議したことは評価でき、その成果が期待される。
	改善のための提言	—
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
中期目標	教育目標に即して、国際的な活動も視野に入れた専門領域横断的、かつ実践現場を体験できる教育プログラムについて検討を重ねる。	
年度目標	①実習、インターンシップに参加した学生の把握、実習の効果を検証する。 ②国際領域における実習およびインターンシップの実現を検討する。	
達成指標	①実習、インターンシップに参加した学生から状況を確認し、学部カリキュラムに国際的な視点を反映できる教育プログラムについて検討する。 ②国際的かつ専門的な活動を視野に入れたカリキュラムの検討を行う。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	①海外研修への応募者が昨年度に比べ増加しており、国際的な活動への関心の高まりが確認できた。 ②東南アジア圏および韓国への海外実習プログラムの検討を始めており、すでに現地調査を実施している。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	海外研修参加者が増加したことは、学生の海外への興味関心がある程度あることを物語っている。また、東南アジア圏や韓国への検討を始めたことは評価できる。
	改善のための提言	渡航費の高騰から東南アジアへのシフトは避けられない状況にあり、ウェルビーイングの視点で多角的な観点から学生が主体的に学び取るプログラムの早期実現が待たれる。
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】	
中期目標	高い専門性と3領域をいかした総合的な学びを通して身につけた教育成果について、	

	学内外に積極的に公表していく。	
年度目標	①各実習についての報告書の作成と報告会を開催する。 ②4年間の学習成果である卒業論文の報告会の開催状況について確認していく。 ③専門演習の学習成果として、積極的に学内外のコンペ、懸賞論文に挑戦することを促す。 ④第2言語の学習成果を把握していく。	
達成指標	①各実習の報告書と報告会開催について検証する。 ②卒業論文報告会の開催実態を調査する。 ③懸賞論文に学部内で5本投稿する。 ④学内外のコンペ等への参加状況を把握し、検証する。 ⑤各ゼミの学習・活動報告会を開催する。 ⑥3領域の横断的な教育の在り方を検討する。	
年度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	①社会福祉士、精神保健福祉士、スクールソーシャルワーク、心理実習、およびコミュニティ・インターンシップ・マネジメントでは報告書の作成、報告会を実施し、次年度に実習に参加する学生への準備教育として機能している。 ②卒業論文等の報告会を開催しているゼミはホームページに実施状況を公開している。 ③懸賞論文は5本の投稿があり、最優秀賞を受賞する論文が出ている。 ④⑤学内外へのコンペに複数のゼミが参加しており、近隣自治体での提案型コンペでは最優秀賞を獲得するなどしているため、その状況をホームページで公開している。 ⑥3領域の横断的な教育の必要性や需要はあるものの、今年度は教育の在り方を検討する機会を持つことができなかった。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	実習に関する報告書作成と報告会、卒論の報告会、懸賞論文への投稿、学内外コンペへの参加など、一定の成果が現れていることは評価できる。
改善のための提言	各種部門での成績優秀者をホームページで公表するだけでなく、教授会でしっかりと表彰すること、学部で表彰式を開催するなどして、褒め称える風土を定着させることで学生の学習・活動意欲を高めることが求められる。	
評価基準	学生の受け入れ	
中期目標	学部の教育理念に基づき、留学生も含めた多様な入試の在り方を充実させる。	
年度目標	①留学生受け入れの動向や指定校推薦入試、グローバル体験入試、まちづくりチャレンジ入試(自己推薦)などの特別入試による入学生数と学習成果について検討する。 ②編入学試験による入学生を確保するための方策を検討する。 ③指定校推薦入試における指定校の適否について、出願状況、入学後の学習成果等に基づいて検討し、指定校を見直していく。	
達成指標	①教務委員会において、各入試方法による入学生の確保と学習成果(GPA)の動向について検討協議し、教授会に報告する。 ②編入学試験を経て入学してきた学生へのモニタリングを実施し、その内容を教務委員会で共有し、さらなる入学者確保に向けた方策を検討する。 ③指定校推薦の出願状況、入学者の学習成果等を用いて、指定校の適否を判断し、見直す。 ④高大連携活動を中心として、付属校へ現代福祉学部の魅力、特長を伝える。	
年	教授会執行部による点検・評価	
度	自己評価	S

未 報 告	理由	①Halo を活用し、学習成果の検討を行ってきた。 ②編入学生へのインタビューにより課題を把握することが可能となった。教授会でも共有し、改善に向けて検討していく。 ③指定校に関しては、入学センターと懇談する機会を持ち、指定校の出願状況等の検討を行った。これらの結果を、今後の指定校の選定に生かしていく。 ④高大連携活動として、国際校への授業担当教員の派遣、オープンキャンパス前日に付属校生のための学校見学等を実施した。また、学部独自の試みとして「付属校出身生インタビュー」(5名)を実施し、課題を抽出、教授会で共有した。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	多様な入試方式に関して、学習成果を確認し、入学センターと情報交換していること、付属校への積極的な情報発信は評価できる。
	改善のための提言	—
評価基準	教員・教員組織	
中期目標	将来的な発展も見据えて、学部の教育理念に即した適切な科目、教員配置、教員組織のあり方について検討を行う。	
年度目標	本学部の中期的なビジョンのもと、本学部の専門性と学際性をいかした教員組織の方向性について検討する。	
達成指標	①他大学の情報を収集整理し、本学部の強みと課題を整理する。 ②教務委員会で協議の上、教授会懇談会を開催し、学部カリキュラム編成とのバランスを踏まえて、教員組織の将来像をとりまとめる。	
年 度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	キャンパスグランドデザイン案に関連し、学部の将来像についてアンケート調査を行うと共に、学部懇談会を2回ほど開催し、検討を行った。また、学部の魅力や将来像を継続的に検討することを目的に、「多摩将来構想委員会」を発足した。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	キャンパスグランドデザインに対して、「多摩将来構想委員会」を設置して、本学部の強みを再確認して提言案をとりまとめたことは高く評価できる。
	改善のための提言	キャンパス内外の資源を繋げることで、多摩キャンパスならびに本学部の将来的な展開を見据えることが期待される。
評価基準	学生支援	
中期目標	個々の学生の状況に応じて細やかな支援体制を維持するとともに、成績不振者への対応によって退学者を減らし、多様な学生へ目配りできるような支援を検討する。	
年度目標	①学生支援のなかでも、とりわけ低 GPA 学生に対する支援の仕組みを整える。 ②先輩学生が後輩の相談に対応するラーニングサポーター制度を活用し、年度当初に身近な相談の機会を充実させる。	
達成指標	①低 GPA の基準と対象とする学生を検討し、秋学期に加えて春学期にも当該学生への面談を実施することにより、適切な対策を講ずる。 ②ラーニングサポーターによる履修相談(相談件数と相談内容)の実績を整理し、次年度に向けた改善課題を検討する。	
年 度 末 報	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	①低 GPA の学生に対し、春学期・秋学期の2回面談を行い、対応結果について教授会で報告・共有した。 ②ラーニングサポーターによる履修相談件数が、教員の履修相談件数を大幅に上回

告		り、新入生への支援として有効であることが明らかになった。両者の連携をさらに 図り、履修内容に応じた誘導を行うなど、学生が相談しやすい体制を検討してい く。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	低GPA学生への対応、ラーニングサポーターによる履修相談を継続している成果 が現れている。
	改善のた めの提言	ラーニングサポーターだけでなく、学生と教員が協働して学部教育を充実してい く体制をより一層充実していくことが望まれる。
評価基準	社会連携・社会貢献	
中期目標	学生や教員における個人・グループでの社会貢献や社会連携についての現状把握に 努めるとともに、それらの活動についての認識を深めることを通して今後の展開を 促す。	
年度目標	①学生や教員、またゼミなどにおける社会貢献や社会連帯活動について実態を把握 する。 ②それらの結果を学部内に対して発表し、共有することを通して、今後の活動の活 性化を図る。	
達成指標	①ゼミや実習担当教員へのアンケートを実施する。アンケート結果をもとに、個々の 活動を可視化して、教務委員会および教授会で公開する。 ②優れた活動を学部内で共有したうえで、学部広報を通じて発信していく。	
年 度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	①②広報委員会から教授会への発信もあり、学生および教員の活動を積極的にホ ムページに公開することが可能となり、個々の活動が可視化されつつある。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	広報委員会を通じてホームページを通じた情報発信は定着しつつある。
改善のた めの提言	外部への情報発信だけでなく、社会貢献活動を学内学生へ伝える場を設けることが 望まれる。	
【重点目標】 受験生に魅力ある学部情報を提供する媒体について検討する。		
【目標を達成するための施策等】 ・新入生、編入生へのインタビューを行い、現代福祉学部の魅力を検証し、より良い広報活動を検証 していく。 ・同窓会からの意見を収集し、現代福祉学部の方向性について検討していく。		
【年度目標達成状況総括】 ・新入生を含めた学生モニターによるインタビュー、編入生及び付属校出身生へのインタビューを実 施し、現代福祉学部を志望した理由、学部の特徴としてアピールすべき点など、在校生の視点から の本学部の魅力を聞き取ることが出来た。こうした情報を得たことは、今後有効な広報活動に繋げ る素地になったと評価している。また、同窓会とは25周年事業を実施するために定例会に出席す るなど足並みをそろえた対応をしており、関係性を構築することが可能となった。次年度の周年事 業を効果的に発信する方法などを同窓会とともに模索していきたいと考える。		

IV. 2025年度中期目標・年度目標

評価基準	理念・目的
中期目標	現代福祉学部および福祉コミュニティ学科・臨床心理学科の教育理念について、外部に 発信するとともに学部内の学生に対しての周知を深める。

年度目標	教育理念に照らし合わせた、25周年事業を開催する。
達成指標	①25周年事業に向けて同窓会との連携を密にし、卒業生が参加しやすい仕組みを構築していく。 ②25周年事業の情報発信を積極的に行い、在校生が参加できる仕組みを作っていく。 ③実習指導室やSIC等の学内部署との連携を図り、学外の関係者の方々に25周年事業の情報発信を積極的に行う。
評価基準	内部質保証
中期目標	継続的な内部質保証を実現するためのPDCAサイクルを充実させる。
年度目標	①質保証委員会と学部執行部との着実なPDCAサイクルを実施していく。 ②SD, FD改善に向けて、教授会研修や研究会などを実施する。
達成指標	①質保証委員会の年3回の開催により、PDCAサイクルの運用を確認していく。 ②ウェルビーイング研究会を年3回開催し、教育内容の質向上を図る。 ③教授会において、FD研修、SD研修をそれぞれ実施し、教員間で課題等を共有する。
評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標	2021年度から実施された新しいカリキュラムにおける教育課程と教育内容についてモニタリングすることにより、その改善策について検討を進める。
年度目標	①専門演習3年次に転ゼミを行う条件を変更したことによる、学生や教員へのヒアリングを実施する。 ②学生モニター結果を踏まえた精神保健福祉士養成課程の変更にかかわる詳細を決定する。
達成指標	①専門演習3年次の転ゼミ条件を変更したことに対する教員・学生へのヒアリング等を行い、教務委員会で検証する。 ②福祉コミュニティ学科において、3年次での精神保健福祉士の実習開始に向けて、カリキュラム配置や実習受入機関等を決定する。
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標	教育目標に即して、国際的な活動も視野に入れた専門領域横断的、かつ実践現場を体験できる教育プログラムについて検討を重ねる。
年度目標	これまでの海外研修および国内研修についてより一層の充実を図る。
達成指標	①海外研修は、スウェーデン研修のみならず、アジア圏（フィリピン）での研修体制を2026年度より実施できるよう準備を進める。 ②国内研修は、募集回数を増やしたことによる効果を検証する。
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標	高い専門性と3領域をいかした総合的な学びを通して身につけた教育成果について、学内外に積極的に公表していく。
年度目標	①各実習についての報告書の作成と報告会を開催する。 ②4年間の学習成果である卒業論文の報告会の開催状況について確認していく。 ③専門演習の学習成果として、積極的に学内外のコンペ、懸賞論文に挑戦することを促す。
達成指標	①各実習の報告書と報告会開催について検証する。 ②卒業論文報告会の開催実態を調査する。 ③懸賞論文に積極的に投稿する。 ④学内外のコンペ等への参加状況を把握し、検証する。
評価基準	学生の受け入れ
中期目標	学部の教育理念に基づき、留学生も含めた多様な入試の在り方を充実させる。
年度目標	①留学生受け入れの動向や指定校推薦入試、グローバル体験入試、まちづくりチャレンジ入試(自己推薦)などの特別入試による入学生数と学習成果について検討する。 ③指定校推薦入試における指定校の適否について、出願状況、入学後の学習成果等に基づいて検討し、指定校を見直す。

達成指標	①学修成果可視化システム Halo や大学評価室が実施している学生調査結果などを活用し、学習成果や課題等を検討する。 ②指定校推薦入試において、出願状況、入学後の学習成果等に基づき、指定校の適否を検討する。
評価基準	教員・教員組織
中期目標	将来的な発展も見据えて、学部の教育理念に即した適切な科目、教員配置、教員組織のあり方について検討を行う。
年度目標	本学部の専門性を活かした教員組織と将来構想について検討していく。
達成指標	①学部のカリキュラム編成とのバランスをふまえて、教員昇格人事を進めていく。 ②多摩将来構想委員会や教授会懇談会を開催し、学部の専門性を活かした教員組織のあり方について検討していく。
評価基準	学生支援
中期目標	個々の学生の状況に応じて細やかな支援体制を維持するとともに、成績不振者への対応によって退学者を減らし、多様な学生へ目配りできるような支援を検討する。
年度目標	①先輩学生が後輩の学習や履修相談に応じるラーニングサポーター制度の充実を図る。 ②教員による低 GPA 学生に対する支援を積極的に行う。
達成指標	①ラーニングサポーターおよび教員履修相談体制の対応基準の相違を明確にし、学生にとって身近なラーニングサポーター制度の充実を図る。 ②低 GPA 学生に対する教員相談を年 2 回行い、適切な対策を講じる。
評価基準	社会連携・社会貢献
中期目標	学生や教員における個人・グループでの社会貢献や社会連携についての現状把握に努めるとともに、それらの活動についての認識を深めることを通して今後の展開を促す。
年度目標	①学生や教員、ゼミ単位で実施している社会貢献活動や社会連携について、25 周年事業において活動報告等の実施を検討する。 ②①で把握したものを学内で共有することを通して、今後の活動の活性化を図る。
達成指標	①25 周年事業において活動報告等が実施できるよう準備を進める。 ②優れた活動を学部内で共有し、学部広報・ホームページを通して発信していく。
<p>【重点目標】 同窓会とともに 25 周年事業の企画・運営を行う。</p> <p>【目標を達成するための施策等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同窓会の定例会に執行部が参画しながら、共同体制を構築していく。 ・25 周年事業に関する情報発信の方法を検討していく。 	

IV-2. 2025年度中期目標・年度目標達成状況報告書

現代福祉学部

評価基準	中期目標 (2022-2025年度)	年度目標	達成指標	年度末報告				
				教授会執行部による点検・評価（教授会承認）			質保証委員会による点検・評価（教授会報告）	
				自己 評価	理由	改善策	所見（達成状況の評価とその理由）	改善のための提言
理念・目的	現代福祉学部および福祉コミュニティ学科・臨床心理学科の教育理念について、外部に発信するとともに学部内の学生に対しての周知を深める。	教育理念に照らし合わせた、25周年事業を開催する。	①25周年事業に向けて同窓会との連携を密にし、卒業生が参加しやすい仕組みを構築していく。 ②25周年事業の情報発信を積極的に行い、在校生が参加できる仕組みを作っていく。 ③実習指導室やSIC等の学内部署との連携を図り、学外の関係者の方々に25周年事業の情報発信を積極的に行う。	S	①同窓会幹事会に執行部副主任を中心に、実習委員長、時には学部長が出席し、25周年事業に向け企画検討を行い、卒業生、在校生が共に集う仕組みづくりを検討した。 ②25周年事業に関するHP発信、学内におけるチラシ配布やポスター掲示を行い、在校生への積極的な参加につなげた。 ③SICと連携を行い、SICが関係している学外関係者への25周年事業に関する情報発信を依頼し、参加者の増加を図った。		25周年事業を企画し、地域住民を含めて学内外へ発信した。加えてSIC（ソーシャルイノベーションセンター）と連携して情報発信を行っており、3点とも目標を達成している。	
内部質保証	継続的な内部質保証を実現するためのPDCAサイクルを充実させる。	①質保証委員会と学部執行部との着実なPDCAサイクルを実施していく。 ②SD, FD改善に向けて、教授会研修や研究会などを実施する。	①質保証委員会の年3回の開催により、PDCAサイクルの運用を確認していく。 ②ウェルビーイング研究会を年3回開催し、教育内容の質向上を図る。 ③教授会において、FD研修、SD研修をそれぞれ実施し、教員間で課題等を共有する。	S	①質保証委員会を年3回（メール審議含む）実施し、中期目標及び年度目標の中間評価、年度末評価を行い、その結果を教授会で共有した。 ②ウェルビーイング研究会を3回開催し、第1回は兼任講師とともに学内の課題を共有する場を設けた。また第2・3回は国内外で研究を行った教員の成果報告を教授会メンバーで共有し、教育の質向上につなげるよう取り組んだ。 ③教授会においてFD、SD研修として動話を視聴し学内外での現状や課題について教員間で意見交換を実施した。		質保証委員会を3回開催した上で諸目標を評価し、結果を教授会で共有した。3回のウェルビーイング研究会では学内の課題を共有し、学部教員の国内外での研究成果を共有するなど、教育の質向上に取り組んだ。さらにFD、SD研修会を開催し、学内外の現状や課題について教員間で意見交換を行うなど、目標を達成している。	
教育課程・学習成果 【教育課程・教育内容に関すること】	2021年度から実施された新しいカリキュラムにおける教育課程と教育内容についてモニタリングすることにより、その改善策について検討を進める。	①専門演習3年次に転ゼミを行う条件を変更したことによる、学生や教員へのヒアリングを実施する。 ②学生モニター結果を踏まえた精神保健福祉士養成課程の変更にかかわる詳細を決定する。	①専門演習3年次の転ゼミ条件を変更したことに対する教員・学生へのヒアリング等を行い、教務委員会で検証する。 ②福祉コミュニティ学科において、3年次での精神保健福祉士の実習開始に向けて、カリキュラム配置や実習受入機関等を決定する。	A	①転ゼミ制度を変更して2年目の現状分析、意見交換を教務委員会で実施した。 ②福祉コミュニティ学科において、3年次の精神保健福祉士カリキュラム検討を重ねてきたが、今年度は入学生数が増加し、実習先の確保などの課題が出たため、導入を先送りとする決定を行った。		教務委員会で転ゼミ制度の現状分析を実施した。また、精神保健福祉士カリキュラムの導入を検討してきたが、入学者数の超過が理由となり、導入が次年度以降に先送りとなったが、概ね目標を達成している。	転ゼミ制度の現状分析を教授会で共有し、また、精神保健福祉士カリキュラムの検討を継続して頂きたい。
教育課程・学習成果 【教育方法に関すること】	教育目標に即して、国際的な活動も視野に入れた専門領域横断的、かつ実践現場を体験できる教育プログラムについて検討を重ねる。	これまでの海外研修および国内研修についてより一層の充実を図る。	①海外研修は、スウェーデン研修のみならず、アジア圏（フィリピン）での研修体制を2026年度より実施できるよう準備を進める。 ②国内研修は、募集回数を増やしたことによる効果を検証する。	A	①国際的な研修の一環として、韓国研修を検討し始め、今年度は大邱大学を視察し、大学寮での受け入れ範囲や見学施設の検討などを実施した。学部内での調整を行い、実施に向けた準備を進めている。 ②国内研修は上限3万円での補助を行っていたが、昨今の物価高騰を踏まえ、上限金額を5万円に引き上げ、さらなる応募者の増加を目指していく。		韓国研修の実現に向けて大邱大学を視察し、受け入れ範囲や見学施設を検討するなど、実施に向けた準備を行った。また、国内研修の補助額の上限金額を5万円に引き上げるなど、応募者の増加を目指すなど、2点の目標を概ね達成している。	これまでの研修先である東南アジアならびに従来のスウェーデンとの研修内容を整理して頂きたい。
教育課程・学習成果 【学習成果に関すること】	高い専門性と3領域をいかした総合的な学びを通して身につけた教育成果について、学内外に積極的に公表していく。	①各実習についての報告書の作成と報告会を開催する。 ②4年間の学習成果である卒業論文の報告会の開催状況について確認していく。 ③専門演習の学習成果として、積極的に学内外のコンペ、懸賞論文に挑戦することを促す。	①各実習の報告書と報告会開催について検証する。 ②卒業論文報告会の開催実態を調査する。 ③懸賞論文に積極的に投稿する。 ④学内外のコンペ等への参加状況を把握し、検証する。	A	①ソーシャルワーク実習では、実習報告書の作成、実習報告会及び実習懇談会で実習先の指導者等を招き、年度末の実習総括や課題の共有などを実施した。心理実習においては実習報告書を作成し、実習先並びに関係者に配布した。コミュニティマネジメントインターンシップでは、実習報告書の作成及び実習報告会を開催し、実習を総括するとともに更なる学習の深化を促した。 ②卒業論文テーマは学部で把握し一覧表を作成している。また、報告会は各ゼミで自主的に実施している。 ③今年度は4編のうち、2編が入選、2編が佳作に選ばれており、継続的な応募が期待される状況である。 ④基礎ゼミコンペでは各ゼミの予選から本選に進んだ6チームの学びの集大成を心理、福祉、地域の外部審査員、学生らによる審査を実施し、その結果をHPで報告している。また、各ゼミによる学外コンペへの出場情報などはHPで随時発信、報告している。		ソーシャルワーク実習では実習を総括し課題の共有を行い、心理実習では実習報告書を関係者へ配布し、さらにコミュニティマネジメントインターンシップでは実習報告書を作成し実習報告会を開催した。卒業論文テーマは今年度も一覧表を共有できる体制を整えた。懸賞論文では応募した4編がすべて高い評価を受け、基礎ゼミコンペでは外部審査員を招いて発表会を開催し、学内外へ結果を配信した。すべての目標をほぼ達成している。	卒業論文や懸賞論文などの優秀作品を在校生に積極的に披露することができないか検討を進めて頂きたい。

評価基準	中期目標 (2022-2025年度)	年度目標	達成指標	年度末報告				
				教授会執行部による点検・評価（教授会承認）			質保証委員会による点検・評価（教授会報告）	
				自己評価	理由	改善策	所見（達成状況の評価とその理由）	改善のための提言
学生の受け入れ	学部の教育理念に基づき、留学生も含めた多様な入試の在り方を充実させる。	①留学生受け入れの動向や指定校推薦入試、グローバル体験入試、まちづくりチャレンジ入試（自己推薦）などの特別入試による入学生数と学習成果について検討する。 ③指定校推薦入試における指定校の適否について、出願状況、入学後の学習成果等に基づいて検討し、指定校を見直す。	①学修成果可視化システムHaloや大学評価室が実施している学生調査結果などを活用し、学習成果や課題等を検討する。 ②指定校推薦入試において、出願状況、入学後の学習成果等に基づき、指定校の適否を検討する。	S	①今年度は入学者が増加し、増コマが発生するなどしているが、学生調査結果等でも大きな課題等は見られていない。教務委員会等で学習成果や課題等については随時検討・共有してきた。 ②指定校推薦においては、例年、合格後の課題提出の遅延が見られている。また、入学後の成績については二極化しており、これらの課題を今後の指定校の適否を判断する材料とすることを教務委員会で確認した。	②指定校推薦者の課題提出遅延については、未提出者に連絡を取り督促を行い、再三の呼びかけに応じない未提出者については高校に連絡を行った。今後も同様の対応が必要となると考える。	学修成果可視化システムと学生調査結果を活用して学習成果や課題等を検討した。また、指定校推薦入試の入学生の成績を確認し、指定校の適否を検討する材料を作成した。2点の目標を達成している。	
教員・教員組織	将来的な発展も見据えて、学部の教育理念に即した適切な科目、教員配置、教員組織のあり方について検討を行う。	本学部の専門性を活かした教員組織と将来構想について検討していく。	①学部のカリキュラム編成とのバランスをふまえて、教員昇格人事を進めていく。 ②多摩将来構想委員会や教授会懇談会を開催し、学部の専門性を活かした教員組織のあり方について検討していく。	S	①今年度は学部の将来的な発展を見据え、昇格審査を行い、教授昇格1名、准教授昇格1名となった。 ②多摩キャンパス及び学部将来構想に向けて、教授会懇談会、多摩将来構想委員会を適宜開催し、これまでの現代福祉学部を取り巻く環境、今後の課題を共有した。		教授1名と准教授1名の昇格人事審査を行い、また、教授会懇談会と多摩将来構想委員会を開催し、現代福祉学部を取り巻く環境と将来的な課題を共有するなど、目標を達成している。	
学生支援	個々の学生の状況に応じて細やかな支援体制を維持するとともに、成績不振者への対応によって退学者を減らし、多様な学生へ目配りできるような支援を検討する。	①先輩学生が後輩の学習や履修相談に応じるラーニングサポーター制度の充実を図る。 ②教員による低GPA学生に対する支援を積極的に行う。	①ラーニングサポーターおよび教員履修相談体制の対応基準の相違を明確にし、学生にとって身近なラーニングサポーター制度の充実を図る。 ②低GPA学生に対する教員相談を年2回行い、適切な対策を講じる。	S	①ラーニングサポーターの履修相談件数が非常に好調であり、人数を増員して対応する結果となった。教員履修相談は低迷していたため、次年度からはオリエンテーション期間の履修相談をラーニングサポーターによる履修相談に特化し、教員による履修相談はメール相談等に変更し、相談内容に応じたサポート体制を整えることとした。 ②低GPA学生への教員相談を実施し、不調な学生へのアドバイスやフォローアップに努めた。		ここ数年の在学生からの履修相談の実績を踏まえ、次年度以降のラーニングサポーターと学部教員による履修相談の在り方を検討した。また、春学期と秋学期に成績不振学生への助言・指導を行った。目標を十分に達成している。	
社会貢献・社会連携	学生や教員における個人・グループでの社会貢献や社会連携についての現状把握に努めるとともに、それらの活動についての認識を深めることを通じて今後の展開を促す。	①学生や教員、ゼミ単位で実施している社会貢献活動や社会連携について、25周年事業において活動報告等の実施を検討する。 ②①で把握したものを学内で共有することを通して、今後の活動の活性化を図る。	①25周年事業において活動報告等が実施できるよう準備を進める。 ②優れた活動を学部内で共有し、学部広報・ホームページを通して発信していく。	S	①25周年事業において、地域貢献の一環として、和田秀樹先生をお招きし、基調講演を行い、地域住民の参加が好調であった。また、クロストークでは、卒業生と在校生が現代福祉学部ならではの学びと活動を交差させた報告を行い、200名を超える参加者となった。 ②2025年度「開かれた法政21」奨学金（成績優秀者奨学金）を学部独自で表彰し、お祝いの授与、学部長との懇談の機会を設け、その様子をHPで発信した。また、各ゼミによる優れた学外活動についても積極的にホームページで公開し、学部の活動内容について理解してもらうよう努めた。		25周年事業では地域貢献の一環として講演会を開催し、卒業生と在校生によるクロストークを実施した。また、学外で高く評価された活動を学部内で共有した上で、ホームページを活用して学外へ発信した。いずれも目標を達成している。	

自己評価について

- S 目標を十分達成し、質の向上が顕著である。
A 目標をほぼ達成し、質の向上が見られる。
B 目標の達成が不十分である。
C 目標が達成できていない。

【重点目標】	【目標を達成するための施策等】
同窓会とともに25周年事業の企画・運営を行う。	・同窓会の定例会に執行部が参画しながら、共同体制を構築していく。 ・25周年事業に関する情報発信の方法を検討していく。
【年度目標達成状況総括】	
25周年事業の開催に向けて準備委員会を発足し、執行部と共同で準備を進めた。 ・和田秀樹氏の基調講演には地域住民が数多く来場され、現代福祉学部の情報発信に興味関心を抱いていただけた。 ・同窓会との共同企画を数多く実施し、在校生代表者と卒業生代表者による「クロストーク」、「就職相談会」、昼食には卒業生が運営する団体から取り寄せた「里山ごはん」を提供することができ、同窓会と一体化した25周年事業を展開することができた。 以上を踏まえ、今年度の目標はおおむね達成できたと認識している。	